

エコアクション21[®]
認証番号 0004069

環境経営レポート「2024」

2024年4月～2025年3月

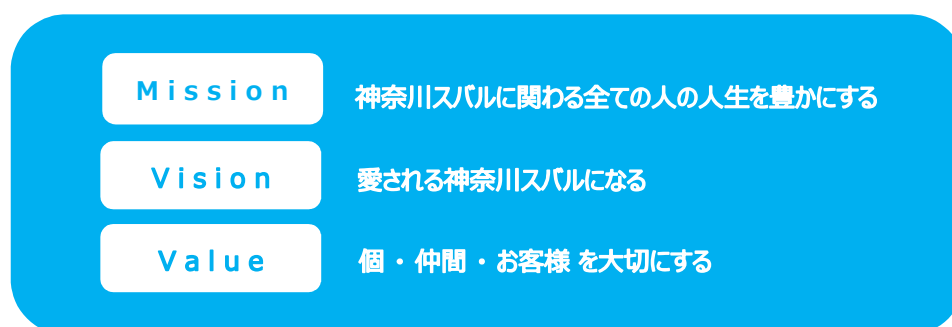
2025年6月30日発行

神奈川スバル株式会社

目 次

1. コーポレートメッセージ	…	P.2
2. サステナビリティ活動方針	…	P.3
3. 会社概要	…	P.4
4. 環境経営方針	…	P.7
5. 環境経営目標	…	P.8
6. 環境経営計画及び取組	…	P.9
7. 環境活動の取組結果と評価及び次年度の環境経営計画	…	P.10
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	…	P.11
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	…	P.11

神奈川スバルブランド 企業理念



私たちは、「**神奈川スバルに関わる全ての人の人生を豊かにする**」ことを企業理念とします。

この理念の根幹となる神奈川スバルが大切にする価値観は「**個・仲間・お客様を大切にする**」です。

そしてこの価値観の大前提を私たちは、「あらゆる人の心を豊かにすること」と定義づけました。一人ひとりの心が豊かになることで、そこからまた誰かの心が豊かになり、やがて多くの人の心が豊かになっていくと考える私たちは、それを実現し続けるために必要不可欠な誰にでも平等に感じることのできる「心の豊かさ」を大切にすることを目指してまいります。

人は心の豊かさを価値観で求め、その価値を手にする事で大きな喜びを手にし、豊かな心を得ています。

あらゆる人が、それぞれに感じる心の豊かさとは、達成感や充実感、さらには安心感や満足感など笑顔につながるその全てのことだと私たちは考えます。だからこそ私たちは、私たちの存在意義の原点となる人に目をむけ、「**個**」・「**仲間**」・「**お客様**」という3つの価値観を大切に、あらゆる人の気持ちに寄り添い、多くの人や社会に貢献できることに喜びを感じられる会社を目指すため、「心の豊かさとは何か」を常に追求し、あらゆる人の心を豊かにすることにチャレンジし続けてまいります。

そのため私たちは、私たちにしかできない付加価値を提供してまいります。そしてこれが神奈川スバルの存在する意義であり、存在する価値だと信じています。私たちの考える付加価値とは一言で言うと、私たちにしかできない「**良い仕事**」の提供です。私たちの理想とする「**良い仕事**」とは、誰もが認め、納得し、必要だと感じ、最後は喜びや笑顔につながる仕事、その全てだと考えます。

神奈川スバルは社員一人ひとりが自分らしさを大切にし、仲間と共に思いを紡ぎながら、お客様と共に歩んでいくことを大事にし、神奈川スバルに関わる全ての人の人生を豊かにしていきます。そしてこの実現こそがまさに、多くの人から「**愛される神奈川スバル**」になることだと私たちは信じています。こうした思いを胸に、神奈川スバルはこれからもあらゆる人の幸せのために、未来へと発展して行きたいと思っております。



神奈川県スバルのサステナビリティ活動方針「想い」の重点6領域



神奈川県スバルは、「人を大切にする」を一番に考えています。
 そんな「想い」を持った、私たちだから出来ることがあります。
 私たち神奈川県スバルと共存している「神奈川県」を、
 大切に想う気持ちをさまざまなカタチで伝えていきます。

社員・家族への想い	私たちは、社員、家族を想う心を大切にしています。 社員一人ひとりの想いや声を聞きながら、 自分らしく力を発揮できる、働きやすい環境を創り、 あらゆる人の心を豊かにしていくことに繋げていきます。
愛されるお店への想い	私たちは、一人ひとりが 地域に合った「愛されるお店」を目指して行動しています。 お客様と私たちが笑顔になるための「想い」をカタチにしています。
地域へつなげていく想い	私たちは、地域の人々へ安心とゆしさを届ける 身近な存在でありたいと思っています。 地域の声や想いを大切にして、 笑顔に繋がるサポートをしています。
いのちを守る想い	私たちは、一人ひとりが持つ 「いのち」を大切にする心を育てていきます。 あらゆる「いのちを守る想い」に共感し、活動を広げていきます。
日々の業務から伝える想い	私たちは、日々の業務での気づきを大切にして、 地球に優しい働き方を推進しています。 その「想い」が繋がって、関わる全ての人の心を豊かにしていきます。
次世代へ伝えていく想い	私たちは、神奈川県スバルが大切にする「想い」を伝えていきます。 その全ての「想い」が次世代に【ツナガル・ヒロガル】ことで、 笑顔あふれる未来を実現していきます。

【1】会社概要（2025年3月31日現在）

（1）事業所名

神奈川県横浜市港北区新横浜1-18-1



（2）所在地

神奈川県横浜市港北区新横浜1-18-1

（3）代表者氏名

代表取締役社長 鈴木 泰介

（4）環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	取締役 管理副本部長	戸井 宏行
E A推進事務局	サステナビリティ推進室	和栗 正典
連絡先	電話 045-478-3611 FAX 045-478-3648	
URL	https://www.kanagawa-subaru.com/	

（5）事業の内容

1. 自動車の販売 2. 中古自動車の売買 3. 自動車部品・用品の販売
および修理 4. 自動車の修理 5. 保険代理業

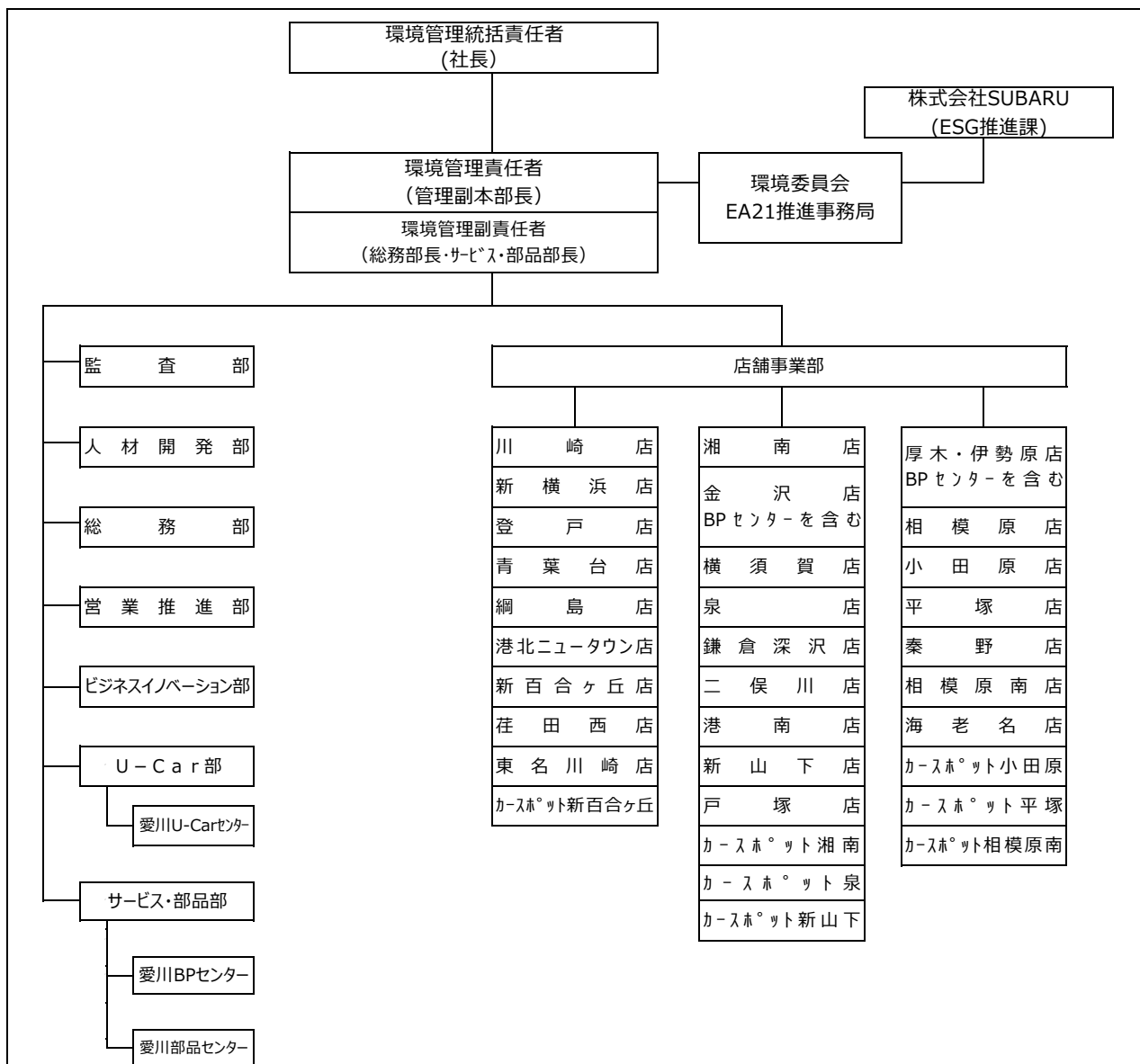
（6）事業の規模

・売上高	3,396,239万円（2024年度）
・新車販売台数	6,363台（2024年度）
・中古車販売台数	5,084台（2024年度）
・従業員数（派遣・パート等含む）	683人（2025/3/31現在）
・店舗数	スバル新車25 U-Car7 BPセンター3 部品センター1

（7）対象範囲（認証・登録範囲）

当社は、全組織・全活動を対象として、エコアクション2.1に取り組み、環境経営システムを構築、運用維持します。

(8) EA21推進組織図 (2025年3月31日現在)



組織構成	役割、責任及び権限
環境管理統括責任者 (社長)	・環境マネジメントシステム (EMS) 執行の最高責任者
環境管理責任者 (管理副本部長)	・本業の業務とは関わりなく、EMSを確立・実施・維持する責任と権限を有する
環境管理副責任者 (総務部長) (サービス・部品部長)	・上記環境管理責任者の業務を補佐する
環境委員会 EA21推進事務局 (委員長: サイティライフ推進室長)(経理課、施設課、技術課、総務・人事課より選任)	・環境管理責任者を補佐し、EMSの確立・実施・維持全般に関する事務局業務を行う ・年1回下期に全店舗内部環境監査実施
部門長・拠点推進責任者	・各部門長は、組織図の担当部門内の統括責任者
一般従業員	・環境活動の重要性を自覚し、必要な環境教育訓練を受け、 環境方針・環境目標・環境活動実施計画書に基づいて、日常の環境活動に取り組む

(9) 店舗・センター一覧

2025/3/31現在

店舗・事業所名	住 所	電話番号	ファックス番号	組織区分
1 本 社	〒222-8571 横浜市港北区新横浜1-18-1	045-478-3611	045-478-3648	A
2 川 崎 店	〒212-0026 川崎市幸区紺屋町42-3	044-522-6211	044-522-6213	C
3 新 横 浜 店	〒222-8571 横浜市港北区新横浜1-18-1	045-478-3630	045-478-3641	C
4 登 戸 店	〒214-0023 川崎市多摩区長尾1-18-9	044-933-5211	044-933-5368	C
5 青 葉 台 店	〒227-0062 横浜市青葉区青葉台1-6-2	045-983-2231	045-983-2165	C
6 綱 島 店	〒230-0071 横浜市鶴見区駒岡2-6-45	045-573-2221	045-573-2667	C
7 港 北 コ ー タ ウ ン 店	〒224-0006 横浜市都筑区荏田東2-1-84	045-943-4711	045-943-5888	C
8 新 百 合 ケ 丘 店	〒215-0023 川崎市麻生区片平1-4-20	044-988-2422	044-988-2416	C
9 荏 田 西 店	〒225-0014 横浜市青葉区荏田西5-18-2	045-911-2355	045-911-2377	C
10 東 名 川 崎 店	〒216-0005 川崎市宮前区土橋2-12-8	045-911-2355	044-855-8415	C
11 湘 南 店	〒253-0012 茅ヶ崎市小和田3-18-20	0467-52-2516	0467-53-0071	C
12 金 沢 店	〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-3-1	045-790-5541	045-790-5561	C
13 横 須 賀 店	〒239-0835 横須賀市佐原1-10-4	046-835-0267	046-835-0269	C
14 泉 店	〒245-0016 横浜市泉区和泉町3191-15	045-802-6111	045-802-6188	C
15 鎌 倉 深 沢 店	〒248-0027 鎌倉市笛田3-1-33	0467-32-8500	0467-32-7749	C
16 二 俣 川 店	〒241-0024 横浜市旭区本村町44-3	045-367-0400	045-367-0411	C
17 港 南 店	〒234-0053 横浜市港南区日野中央1-1-6	045-847-2221	045-847-2227	C
18 新 山 下 店	〒231-0801 横浜市中区新山下2-10-7	045-628-2411	045-628-2418	C
19 戸 塚 店	〒244-0812 横浜市戸塚区柏尾町150-7	045-822-1800	045-822-1822	C
20 厚 木 ・ 伊 勢 原 店	〒259-1114 伊勢原市高森1 5 9 3 - 1	0463-93-7761	0463-93-7762	C
21 相 模 原 店	〒252-0331 相模原市南区大野台1-3-8	042-753-2001	042-753-2695	C
22 小 田 原 店	〒250-0002 小田原市寿町1-16-17	0465-34-3156	0465-34-3159	C
23 平 塚 店	〒254-0013 平塚市田村5-4-28	0463-55-1411	0463-55-1414	C
24 秦 野 店	〒257-0015 秦野市平沢390-1	0463-81-6994	0463-81-6995	C
25 相 模 原 南 店	〒228-0814 相模原市南区麻溝台8-11-14	042-743-5110	042-743-5133	C
26 海 老 名 店	〒243-0422 海老名市中新田540-1	046-234-2611	046-234-2917	C
27 カ ー ス ホ ー ッ ト 平 塚	〒254-0013 平塚市田村2-7-40	0463-55-1311	0463-55-1385	B
28 カ ー ス ホ ー ッ ト 湘 南	〒253-0012 茅ヶ崎市小和田3-18-20	0467-53-1320	0467-53-0075	B
29 カ ー ス ホ ー ッ ト 相 模 原 南	〒228-0828 相模原市南区麻溝台8-12-25	042-745-2441	042-701-9551	B
30 カ ー ス ホ ー ッ ト 泉	〒245-0016 横浜市泉区和泉町3191-15	045-802-7222	045-802-7401	B
31 カ ー ス ホ ー ッ ト 小 田 原	〒250-0002 小田原市寿町1-17-18	0465-66-5533	0465-66-5534	B
32 カ ー ス ホ ー ッ ト 新 山 下	〒231-0801 横浜市中区新山下2-10-7	045-622-0121	045-622-0344	B
33 カ ー ス ホ ー ッ ト 新 百 合 ケ 丘	〒215-0023 川崎市麻生区片平1-4-20	044-988-9779	044-988-0406	B
34 愛 川 U-Car セ ン タ ー	〒243-0303 愛甲郡愛川町中津2536-1	046-281-7270	046-286-6464	B
35 金 沢 B P セ ン タ ー	〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-3-1	045-790-5567	045-790-5568	D
36 厚 木 ・ 伊 勢 原 B P セ ン タ ー	〒259-1114 伊勢原市高森1 5 9 3 - 1	0463-93-7738	0463-93-7762	D
37 愛 川 B P セ ン タ ー	〒243-0303 愛甲郡愛川町中津2536-1	046-284-5311	046-286-6355	D
38 愛 川 部 品 セ ン タ ー	〒243-0303 愛甲郡愛川町中津2536-1	046-280-4491	046-280-4492	E

※組織区分

- A : オフィス業務
- B : オフィス業務 + 販売
- C : オフィス業務 + 販売 + 整備
- D : オフィス業務 + 板金塗装
- E : オフィス業務 + 部品販売

【2】環境経営方針（2025年3月31日現在）

《基本理念》

神奈川スバル株式会社は、事業活動が地域および次世代の環境に及ぼす影響を常に考え、事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行い、あわせて環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。

これらの活動を通して、住み良い地域環境と、地球環境の実現のため、経営のあらゆる面で環境に配慮して行動します。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行なう自動車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 次の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行いません。
 - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）
 - ②省資源（水使用量、紙使用量）
 - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
 - ④化学物質管理の強化（P R T R法関連、V O C対策）
 - ⑤エコカーの積極的な販売推進
 - ⑥顧客車両の整備徹底による環境影響の低減
 - ⑦グリーン購入の推進
 - ⑧拠点周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
2. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。

2020年4月1日
神奈川スバル株式会社
代表取締役社長 鈴木 泰介

【3】環境経営目標

当社は、環境への負荷が大きいと考えられる《エネルギー使用量》《廃棄物の排出量》の把握をし、削減活動に重点をおくことかつ、リサイクルの推進を積極的に行う。

(1) 2022年(基準年度)

項目	単位	2022年 (基準年度)	
二酸化炭素排出量(総量)	kg-CO2	1,206,592	
電気使用量	kWh	3,601,582	
燃料	ガソリン	L	335,613
	灯油	L	0
	軽油	L	53,004
	L P G	kg	43,421
	都市ガス	m3	9,623
水使用量	m3	26,352	
コピー用紙	枚	6,962,750	
一般廃棄物	t	171.1	
産業廃棄物	t	281.3	
化学物質の管理	-	-	
エコカー販売の推進	%	30.0%	
顧客車両の整備徹底	-	-	
社会貢献環境保全活動	-	-	

CO2排出係数

【電気】0.376kg-CO2/Kwh (東京電力エナジーパートナー)
0 kg-CO2/Kwh (出光グリーンパワー(株))

【ガソリン】2.29kg-CO2/L

【灯油】2.50kg-CO2/L

【軽油】2.62kg-CO2/L

【L P G】3.00kg-CO2/kg

【都市ガス】2.16kg-CO2/m³



※基準年度及び目標数値は2022年度の「東京電力エナジーパートナー」公表の値(0.376)及び「出光興産」公表の値(0.0)を使用して算出しています。

(2) 中期環境経営目標(全社)

項目	単位	2022年 (基準年度)	削減目標	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
二酸化炭素排出量(総量)	kg-CO2	1,206,592	目標以下	1,210,000	1,210,000	1,210,000	
電気使用量	kWh	3,601,582	目標以下	3,610,000	3,610,000	3,610,000	
燃料	ガソリン	L	335,613	目標以下	336,000	336,000	336,000
	灯油	L	309	目標以下	300	300	300
	軽油	L	53,004	目標以下	53,000	53,000	53,000
	L P G	kg	43,421	目標以下	44,000	44,000	44,000
	都市ガス	m3	9,623	目標以下	9,700	9,700	9,700
水使用量	m3	26,352	目標以下	27,000	27,000	27,000	
コピー用紙の削減	枚	6,962,750	目標以下	6,970,000	6,970,000	6,970,000	
一般廃棄物	t	171.1	目標以下	175.0	175.0	175.0	
産業廃棄物	t	281.3	目標以下	290.0	290.0	290.0	
エコカー販売の推進	-	30.0%	-	30.0%	30.0%	30.0%	

※CO2排出係数について

・本社及び店舗の電気は、「CO2排出量ゼロ」の「再生可能エネルギー100%電力」の供給を受けています。

※化学物質の管理について

- ・VOC規制にかかる塗料は、引き続き二石の使用を実施
- ・シンナーは、使用時以外は密閉容器での保管を実施

※エコカー販売の推進について

・販売車種中のe-BOXER(ハイブリッド車)及びソルテラ(電気自動車)の販売比率を目標とします。

※2025年度の二酸化炭素排出量については、2022年実績を数値目標としていますが、

「自主目標」として目標比3.0%削減を数値目標とし、2026年度はエネルギー使用量等の数値目標を見直します。

【4】環境経営計画及び取組

(1) 数値目標を達成するための取組と実施体制

No.	項目	具体的取組	実施体制	
			主管部署	実施部署
①	二酸化炭素排出の削減	・電気・燃料の使用削減の推進	総務部	全店舗 全部署
②	電気使用量削減	・節電への取組強化（昼休み、未使用時の消灯） ・ショールーム消灯時間の徹底（原則18時00分とする） ・冷暖房の室温管理（事務所：夏季28℃ 冬季20℃の室温管理） ・通年ノーネクタイ勤務の推奨 ・新店舗へのLED照明器具の導入、照明機器更新の際のLED化	総務部	全店舗 全部署
③	燃料使用量削減	・効率的な車の使用により、ガソリンを削減する ・アイドリングストップの推進 ・エコ運転の推進（エコドライブ10のすすめ）の励行 ・社有車・営業車のエコカーへの代替え	総務部	全店舗 全部署
④	水道水の使用量削減	・オフィスでの節水活動推進 ・洗車時の節水	総務部 サービス・部品部	全店舗 全部署
⑤	紙（コピー用紙）の使用削減	・電子文書の使用拡大 ・コピー削減	総務部	全店舗 全部署
⑥	一般廃棄物の削減	・分別再資源化の強化 ・ペットボトルキャップ収集に伴う分別の強化	総務部	全店舗 全部署
⑦	産業廃棄物の削減	・マニフェストの完全運用 ・分別再資源化の強化	サービス・部品部 U-Car部	整備実施店舗 BPセンター 部品センター U-Carセンター

(2) その他の取組

No.	項目	具体的取組	実施体制	
			主管部署	実施部署
①	エコカー販売の推進	・e-Boxer（ハイブリッド車）及び電気自動車の販売推進	営業本部	新車店舗
②	顧客車両の整備徹底	・法定点検、一般整備の入庫促進 ・排ガス・騒音等の法令・規制に適合する状態の維持	サービス・部品部	整備実施店舗
③	環境関連法の遵守 （社員・関係者への教育）	・各法令遵守に向けた社内（および取引先等の関係者）教育 ・内部環境監査実施	総務部	全店舗 全部署
④	化学物質管理の強化	・塗料等の化学物質の適正な管理 ・法令遵守に向けた教育、監査の実施	サービス・部品部	BPセンター
⑤	店舗等での社会貢献と 環境保全活動の推進	・警察と連携した地域交通安全活動への参加（交対協など） ・事業所周辺の清掃活動 ・店舗での職場体験の受け入れ 地域密着型拠点実現のため地域社会への環境活動を進める 地域町内会・自治会との協力等	総務部	全店舗




 一つの
いのち
プロジェクト



【5】環境活動の取組結果と評価及び次年度の環境経営計画

(1) 実績

項目	単位	基準値	2024年度目標値		2024年度 実績と評価			
		2022年 (基準年度)	削減目標 (対基準年度)	年間目標	実績	費用 (使用料金等)	削減状況 及び判定	
二酸化炭素排出量(総量)	kg-CO2	1,206,592	基準年以下	1,210,000	1,170,513		-3.3% △	
電気使用量	kWh	3,601,582	基準年以下	3,610,000	4,045,037	131,060,626	12.1% ×	
燃料	ガソリン	L	335,613	基準年以下	336,000	339,513	53,559,346	1.0% △
	灯油	L	309		300	61	6,813	-79.7% ○
	軽油	L	53,004		53,000	50,984	5,392,838	-3.8% △
	LPG	kg	43,421		44,000	34,187	6,221,561	-22.3% ○
	都市ガス	m3	9,623		9,700	10,388	1,584,653	7.1% △
水使用量	m3	26,352	基準年以下	27,000	27,327	12,475,108	1.2% △	
コピー用紙	枚	6,962,750	基準年以下	6,970,000	7,238,000	4,870,616	3.8% △	
一般廃棄物	t	171.1	基準年以下	175.0	142.4	8,773,889	-18.6% ○	
産業廃棄物	t	281.3	基準年以下	290.0	306.6	23,687,028	5.7% △	
エコカー販売の推進	-	30.0%	-	30.0%	35%		16.7% ○	

判定記号：○目標値10%以上削減 △目標値+-10%未満 ×目標値10%以上増加

※液化石油ガス(LPG)の使用量を気体(m3)で把握しているため「1m3=2.07kg」として換算

※コピー用紙の枚数はA4換算の購入枚数で集計しています。

※基準年度及び目標数値は2022年度の「東京電力エナジーパートナー」公表の値(0.376)及び「出光興産」公表の値(0.0)を使用して算出しています。

(2) 数値目標の達成と資源を抑制するための取組結果と評価及び次年度の環境経営計画

① 二酸化炭素排出量削減

・電気については、一部事業所を除く、出光興産の再生可能エネルギー活用により排出量は抑えられているが、相対的にガソリンの排出量の比率が上昇し、全体の約7割を占めている。

※次年度の計画⇒**全社で社用車のハイブリッド切り替えとエコドライブを推進する。**

② 電気使用量削減

・記録的な猛暑となり、高温期間が長かったことや、海老名店、厚木・伊勢原店にて、定休日および長期連休中にリニューアル工事を行ったため、前年度以上の使用量となり、目標比は12.1%増となった。

※次年度の計画⇒**一部店舗に空調管理システムを試験導入した結果を数値化し、全社導入を検討していく。**

③ 燃料使用量削減

・Web会議や営業活動の効率化を推進し、物流の体制を見直したことで、軽油の使用量は削減目標を達成することができた。
・リニューアルや新設の設備見直しと効率的な配置により、LPガスの使用量は削減目標を達成することができた。

※次年度の計画⇒**来店型店舗への取り組みを推進することや店舗ごとのガソリン使用量の管理を徹底していく。**

④ 水使用量削減

・海老名店、厚木・伊勢原店にて、定休日および長期連休中にリニューアル工事を行ったため、使用量が1.2%増となった。

※次年度の計画⇒**引き続き、事務所内での節水啓蒙と、洗濯機入替時の節水タイプへの変更を行っていく。**

⑤ コピー用紙の使用削減

・電子申請システムを推進しているが、業務の中での取り組みがまだ足りておらず、使用量は3.8%増となった。

※次年度の計画⇒**商談時のお客様確認用はiPadでの実施を推進し、確認用での使用について意識醸成を行う。**

⑥ 一般廃棄物

・ペーパーレス化の推進と、分別、リサイクルの強化により廃棄量の削減目標を達成できた。

※次年度の計画⇒**各拠点の自治体の取り組みに合わせ、3Rを推進していく。**

⑦ 産業廃棄物については、整備在庫台数減(基準年度比96%)だったが、▲0.1%減にとどまった。

・各拠点での分別が推進され、産廃プラとしての廃棄が増えたことで、廃棄量は5.7%増となっている。

※次年度の計画⇒**廃自動車部品(バンパー等)のリサイクル促進、分別再資源化の強化を推進する。**

(3) その他の取組結果と評価及び次年度の環境経営計画

① エコカー販売の推進

・ハイブリッド車のラインナップが増え、販売を促進していることで、販売比率が35.0%となった。

※次年度の計画⇒**環境×安全を掛け合わせた提案を、神奈川県内のお客様に推進していく。**

② 顧客車両の整備徹底

・排気ガス漏れやオイル漏れなど、環境に悪影響を与えることがないよう、入庫車輛の正しい点検・整備を実施する。

③ 環境関連法の遵守

・管理者向けの社内研修や、朝礼時にスタッフへの周知など、継続して教育を実施していく。

④ 化学物質管理の強化

・VOC規制にかかる塗料は、使用量及び使用する塗料の種類について管理し、シンナーは密閉容器での保管を実施する。

※現在は第一種指定化学物質の含有が少ない溶剤を使用して届出対象外となっており、さらに2019年度から水性塗料を導入しており、法令上の届出対象はない。

⑤ 店舗等での社会貢献と環境保全活動の推進

・地域のイベントに参加し、ブルーカーボン・SDGsブースにて、EV車の電気供給で「自然のいのち」を守る環境活動とした、地球温暖化防止につながるコンプを使った足湯を実施した。

【6】環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる環境関連法規

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設設置の届出（自動車自動洗浄装置等）	○
下水道法	排水施設の設置義務 特定施設の届出	○
廃棄物処理法	マニフェスト集計・報告 収集運搬・処分業者との契約	○
消防法	少量危険物貯蔵届出	○
騒音規制法	特定施設の届出（コンプレッサ定格出力7.5Kw以上）	○
振動規制法	特定施設の届出（コンプレッサ定格出力7.5Kw以上）	○
化管法（P R T R法）	排出量・移動量の把握と届出	○
自動車リサイクル法	引取業届出 使用済自動車の適正処理	○
NOx・PM法	適合車両の使用	○
家電リサイクル法	対象機器の廃棄の際、適切な引渡し及びリサイクル料金の支払い	○
省エネルギー法 ※	定期報告書、中長期計画書の提出（エネルギー使用量1500kl/年以上）	○
建設リサイクル法	適正な分別解体と再資源化、知事への届出	○
フロン排出抑制法	定期点検・簡易点検の実施と記録の作成・保管、漏えい量の報告	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律	事業者は、プラスチック使用製品廃棄物の排出を抑制すること	○
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	自動車を使用する事業者は、業務用の自動車の運転者にアイドリング・ストップを遵守させるよう、適切な措置を講じなければならない。	○

※省エネルギー法については2012年に特定事業者取消を届出済みです。

（神奈川県スバル全体の合計値で換算。2024年度実績として1,298kl/年）

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。

【7】代表者による全体の評価と見直し・指示

2024年度も例年になく異常気象や感染症に見舞われ、社員の皆さんが体調管理の面でも大変苦労された中で、職場環境の改善と環境配慮を掛け合わせた設備改善を進めてきました。合わせて、各拠点での取り組みの結果として、CO2の排出を抑えた事業活動が出来ました。

また、待望の「S:HEV（ストロングハイブリッド）」を搭載した新型車も発売され、より一層の事業活動と環境保全を繋げた取り組みが重要となります。

我々を取り巻く環境、時代の変化はとて速いスピードで流れています。ぜひ、スピード感をもって前進していくことにチャレンジしてください。従業員全員が、スバルチームで進めている「ひとつのいのちプロジェクト」を軸に、「ひと」、「自然」のいのちを守ることが、環境への取り組みへ繋がることを意識し、日常業務の中で自然と実行できるようにしていくことが重要であるため、活動を推し進めていきましょう。



ツナガル  ヒロガル

KANAGAWA SUBARU